

世界自然遺産の屋久島

ようこそ

中間集落へ



集落の概要

中間は（なかま）と読み、山や川などの間の地、あるいは入り江などを意味する言葉であるとも言われている。中間は、栗生村から分村した村であるが、江戸時代の初期（1650年頃）に描かれたと思われる『屋久島大絵図』には記載されている。栗生村と「仲間同士」という意味に由来するとも言われている。

中間集落は、屋久島町の南西に位置する集落であり、秀峰七五岳（1488m）から流れ下る中間川の河口に広がっている。気候は、冬季には北西の季節風が吹くものの年平均気温は高い。雨量は町内でも少ない地域であり、この良好な気候条件は、かつては島内で最も良質の黒糖を産し、また、果樹なども糖度の高いものを産する地域である。

地形は、山が海岸近くに迫り、耕地は海岸から約1km内外の幅で広がり、一部は中間川沿いに上流に向かっていて、谷が比較的深く、小山も多いが平坦な土地が少ないため農地は細分化され、一反歩を越える耕地は少ない。よって、藩政時代から村人のほとんどが、カツオやトビウオなどの漁を行っていたと記されている。

現在では、集落人口268人、世帯数134世帯が暮らしており、家々が軒を寄せ合い全戸が家族のような結束の固い集落である。

集落の年中行事

- | | | |
|------------------|----------------|----------------|
| ① 1月 7日・・・鬼火焚き | ② 2月15日・・・春の大祭 | ③ 5月2日・・・えびす祭り |
| ④旧8月15日・・・十五夜綱引き | ⑤10月15日・・・秋の大祭 | ⑥旧10月10日・・・岳参り |

集落の観光名所地

- | | | |
|------------------|----------------------------------|-------|
| ・中間ガジュマル（町指定文化財） | ・屋久島フルーツガーデン | ・中間神社 |
| ・集落内の古道（石垣及び階段） | ・中間浜（サーフスポットや海遊び）※海水浴場としての指定はなし。 | |

集落の民話

ある日の夕暮れ時、母親がなく子（7歳の女の子）を家に残し、畑に野菜を採りに行った。帰ってみると子供がいないのに気づき、中間ガジュマルの付近でその子を見た人がいると聞き、すぐ現場に行ったが子供はいなかった。村の人たちと手分けして2日間捜索したが、探し出すことはできなかった。後に祈祷師に相談しに行くと「七五岳の神様が預かっている」ということであった。しかし子供は帰ってこなかった。その子供は神隠しに会う前川沿いのらっきょう畑で遊んでいたらしく、七五岳の頂上付近には今でもらっきょうが生えているという。

屋久島の人は昔から奥岳には神様が住んでいると信じておりとても信仰心が強かった。年に2回岳参りという行事が行われ、住民の安全・豊作・豊漁を願って中間集落では七五岳にお参りをした。現在は旧暦の十月十日に1回だけ岳参りを行っている。頂上付近の祠に焼酎・塩・米を撒き賽銭をおいて祈る。最近まで神隠しにあった一族が中心となり岳参りを行ってきた経緯もある。

集落の遺跡

- えびす様・・・豊漁・安全を祈願し、毎年5月2日（八十八夜）に集落で恵比寿祭りを行っている。
- 集落内石垣・・・明治20年頃当時の石工職人の清水伊太郎らが造った石垣が今でも至る所に残されている。
- 森山神宮・・・昔から山岳信仰の島であるが故に山の神様に祈りを捧げるため、集落の人達が誰でも参拝できるように建立されたもの。
- お産の神様・・・村人が流行り病のときや、お産前後に参拝していた。

屋久島・中間地区 集落散策マップ



中間神社



集落内の石垣

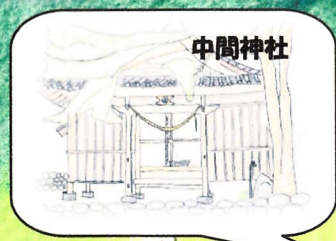


浜えびす様



七五岳

七五岳 1,488m



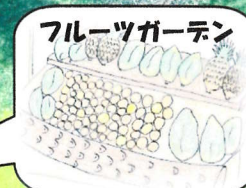
中間神社



森山大明神



中間ガジュマル



フルーツガーデン

至 栗生

運動場

公民館

カフェレスト
ヒロ

日高鮮魚店

中間川

中間バス停

霊園

浜えびす様

茶工場

亀石

綱掛橋バス停

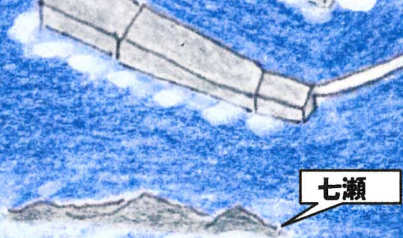
至 尾之間



中間の夕日



郷土芸能



七瀬



鬼火焚き



十五夜 (綱引き)